令和8年度

「運営に関する計画」中間評価

大阪市立金塚小学校

令和8年11月

大阪市立金塚小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「心豊かで たくましい子を育てる」を学校教育目標として、人間尊重の精神を基底とした安全・安心な教育の推進、学力・体力の向上に取り組んできた。また、ICT の積極的な活用など教育環境の充実にも力を注ぎつつあるところである。

安全・安心な教育の推進については、特にいじめや不登校に関する情報を全教職員で共有し、組織的に対応できていて、少しずつ成果が上がっているところである。今後も子どもたちのわずかな変化を見落とさないよう心のアンテナを高く張り、油断することなく子どもたちの学校生活を支えていく必要がある。

学力・体力の向上については、これまで概ね成果をあげることができたが、様々な課題も見えてきた。未来を切り開く学力としては、児童一人一人の思考力や表現力を高めることが重要であるととらえている。今後も、研究推進委員会と学力向上推進委員会が中心となって、児童の学力向上の取り組みを強化する必要がある。また、体力面では学年によって傾向性が異なるため、その学年の実態や課題に合わせた取り組みが必要だといえる。

学びを支える教育環境の充実については、専科制や通知表2期制など改革した点についてメリット・デメリットを明らかにし、より効果的な運用を図っていくことや、教職員の働き方改革を見据えつつ加速的に取り組みを実施していくことが課題であると考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○　小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を毎年向上させ、令和11年度には87％以上にする。（市目標：令和 11 年度 87％）

R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
82％				

○　小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を毎年向上させ、令和11年度には90％以上にする。（市目標：令和 11 年度 88％）

R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
87％				

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　小学校学力経年調査における平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も毎年向上させ、令和 11 年度には1．20以上にする。（市目標：令和 11 年度全国平均以上）

	国　語					算　数				
	R7	R8	R9	R10	R11	R7	R8	R9	R10	R11
現6年生	1.10					1.11				
現5年生	1.09					1.13				
現4年生	1.11					1.10				
現3年生										
現2年生										
現1年生										

○　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的回答の割合を毎年向上させ、令和11年度には88％以上にする。（市目標：11年度全国学テ調査で 85％以上）

R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
86.2％				

○　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を毎年向上させ、令和 11 年度には 68％以上にする。

R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
64.7％				

【学びを支える教育環境の充実】

○　小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を毎年向上させ、令和毎年向上させ、令和11年度には82％以上にする82％以上にする。（市目標：11年度 80％）

R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
74.2％				

２　中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を８３％にする。

（R ７：82.1％）

・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を８８％にする。

（R ７：85.6％）

・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。

（R ７：76％）

・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる」か「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を前年度以上にする。

（R ７：95％）R ８前期：95％

・児童アンケート「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の項目について肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。

（R ７：92％）R ８前期：88％

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も１ポイント向上させる。

R7（国語）現４年 111→　　５年 109→　　６年 110→

（算数）現４年 110→　　５年 113→　　６年 111→

・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたらことができていますか」に対して、肯定的回答の割合を８６％以上にする。

・小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度並みまたはそれ以上にする。

（R7：82.7％）

・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７６％以上にする。

（R7：75.6％）

・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。

（R7：64.7％）

・保護者アンケート「学校は手洗い・うがい、睡眠時間、姿勢、食育等子どもの健康安全に積極的に取り組んでいる」の項目について「よく当てはまる（当てはまる）と答える保護者の割合を前年度並みにする。

（R7：99％）R ８前期：99％

【学びを支える教育環境の充実】

- **小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。**
  （R ７：74.2%）
- 「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす割合を８５％以上、基準２を満たす割合を１００％とする。
  （基準１　R ７：81.8%　　基準２　R ７：100%　）
- 年度末の教職員アンケートにおける「校内研修は充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を前年度並みにする。
  （R ７：100%）
- 小学校経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７１%以上にする。
  （R ７：71%）
- 年度末の保護者アンケート「学校は学習の様子や学校行事の様子を積極的に保護者や地域に伝えている」に対して肯定的に回答する保護者の割合を前年度並みにする。
  （R ７：92%）R ８前期：99%

３　本年度の自己評価結果の総括

（様式２）

大阪市立金塚小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 **・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を８３％にする。** **（R ７：82%）** **・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を８８％にする。** **（R ７：87%）** ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。 （R ７：76%） ・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる」か「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を前年度以上にする。 （R ７：95%）R ８前期：95% ・児童アンケート「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の項目について肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 （R ７：92%）R ８前期：88%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【１　安全・安心な教育の推進】（明るく落ち着いた教育環境づくり） 全教職員が児童の実態把握に努め、全教職員の協働によって、児童が落ち着いて学校生活を送ることができるように支援する。	B
指標 児童の共通理解の機会を月１回設けたり、気になる児童の状況を日常的に伝え合ったりする。	
取組内容②【１　安全・安心な教育の推進】（いじめ・不登校） 一人一台端末を利用した「いじめアンケート」や「心の天気」を実施し、いじめの未然防止と早期発見の取組の徹底を図る。	B
指標 毎日「心の天気」を実施したり、学期に１回いじめアンケートの実施し結果の対応を行ったりする。	

取組内容③【１　安全・安心な教育の推進】（情報モラル教育の推進） 　タブレットの適切な使い方やインターネット上のルールについて指導を行い、情報モラルの向上を図る。 指標 　タブレットの使い方や持ち帰りに関するルールを作成し、全児童に配布する。	B
取組内容④【１　安全・安心な教育の推進】（防災・減災教育の推進） 　避難訓練やまちなか防災を実し、防災・減災の意識を高める。 指標 　避難訓練を年３回実施する。	B
取組内容⑤【２　豊かな心の育成】（社会性を育む取り組み） 「あひるの力※」や「学校生活の約束」を活用し、社会性の育成や規範意識の醸成の指導に取り組む。 ※「あ」あいさつをする　「ひ」人の話を聞く　「る」ルール･マナーを守る 指標 　マナーアップウィークを年２回実施する。	B
取組内容⑥【２　豊かな心の育成】（道徳性を育む取り組み） 　道徳の授業や、やさしさウィークで、まわりの人にやさしくする意識を高めていく。 指標 　児童アンケートの「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の項目について、肯定的回答の割合を 85%以上にする。	B
取組内容⑦【２　豊かな心の育成】（インクルーシブ教育） 　教室の環境の整備とともに、すべての児童が安心して学べるよう視覚化・構造化・具体化を取りいれた授業改善を行う。 指標 　１日のスケジュール、学級のルールや既習事項を視覚化し、教室環境を整える。	B
取組内容⑧【２　豊かな心の育成】（多文化共生教育） 　外国につながる子どもたちのアイデンティティの形成、母語・母文化の保障のための多様な国際交流クラブの設置をする。 指標 　学期に１回以上、国際交流クラブを実施する。	B
取組内容⑨【２　豊かな心の育成】（人権を尊重する教育） 　たてわり班によるわくわくグループでの活動を実施し、異学年交流を進めていく。 指標 　たてわり班による年 10 回以上の児童集会、金塚まつりや全校遠足などを実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 職員会議や学年打合せにおいて継続的に児童理解の共有を行っている。気になる児童については、学年を越えて教職員が連携しながら支援を進めている。 ② 「心の天気」は毎日実施している。いじめアンケートについても１学期に実施し、必要に応じて対応を行った。相談申告機能の活用はなかったが、定期的に確認を行い、早期発見できる仕組みを整えている。 ③ タブレット端末の活用ルールを作成し、全児童に配布している。また、定期的なルール確認を行い、情報モラルの向上に努めている。 ④ 避難訓練は１回実施し、２学期以降も計画的に実施する予定である。防災・減災への意識向上に向けて継続的に取り組んでいる。 ⑤ マナーアップウィークを実施し、あいさつや話を聞く態度など、基本的な生活習慣や社会性の育成につながっている。 ⑥ 児童アンケート「相手のことを考え、みんなが気持ちよく過ごせるようにした」の肯定的回答は 88%であった。やさしさウィークでは、自分が実践した優しさを振り返る活動を取り入れ、思いやりの意識を高めることができた。 ⑦ 曜日ごとの予定や一日の目標を視覚化し、学習の流れを明確にすることで、安心して学べる環境づくりを進めている。学習のルーティン化や自ら学ぶ時間の確保にもつながっている。 ⑧ 国際交流クラブは計画通り実施している。母国の文化や遊び、食べ物を紹介し合う活動を通して、異文化理解を深めることができた。 ⑨ 縦割り班による児童集会を 10 回以上実施している。わくわくグループ遊びやわくピカタイムなど、異学年交流の機会が充実し、互いを認め合う関係づくりにつながっている。
今後への改善点
① 職員間での児童理解の共有を継続するとともに、気になる児童への支援方法について具体的な手立てを共有し、学年を越えた組織的な支援体制をさらに充実させる。 ② 「心の天気」やいじめアンケートの結果をより丁寧に分析し、児童との面談や保護者との連携を進めることで、いじめや不登校の未然防止及び早期対応に努める。 ③ タブレット端末の利用ルールを定期的に見直すとともに、家庭とも情報を共有しながら、安全で適切な ICT 活用について継続的に指導する。 ④ 避難訓練を計画的に実施し、様々な災害を想定した訓練や事後の振り返りを充実させることで、防災意識と主体的な行動力の向上を図る。 ⑤ 「あひるの力」や学校生活の約束を日常的に振り返る機会を設け、あいさつや話を聞く態度、ルールを守る意識のさらなる定着を図る。

⑥　やさしさウィークや道徳科の学習を通して、自分の行動を振り返る活動を充実させ、相手の立場に立って考え行動できる児童の育成を進める。

⑦　教室環境の視覚化・構造化を継続するとともに、一人一人の実態に応じた支援や授業改善を進め、誰もが安心して学べる環境づくりを充実させる。

⑧　国際交流クラブの活動内容をさらに工夫し、多様な文化や価値観に触れる機会を増やすことで、異文化理解と相互尊重の意識を高める。

⑨　縦割り活動や児童集会を継続し、異学年との関わりを深めるとともに、互いのよさを認め合い支え合う関係づくりを推進する。

（様式２）

大阪市立金塚小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 **・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も１ポイント向上させる。** **R7（国語）現４年 111→　５年 109→　６年 110→** **（算数）現４年 110→　５年 113→　６年 111→** **・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的回答の割合を８６％以上にする。** **（R7：86.2%）** ・小学校学力経年調査における「理科の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８２％以上にする。 （R7：82.1%） ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７６％以上にする。 （R7：74.3%） ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を６５％以上にする。 （R7：64.7%） ・保護者アンケート「学校は手洗い・うがい、睡眠時間、姿勢、食育等子どもの健康安全に積極的に取り組んでいる」の項目について「よく当てはまる（当てはまる）と答える保護者の割合を前年度並みにする。 （R7：99%）R ８前期：99%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【４　誰一人取り残さない学力の向上】（探究学習の研究） 「理数好きな児童の育成」を柱に、地域や ICT を効果的に活用した探求学習を目指す。学習課題を自分事として捉え、探究サイクル（①課題設定②情報の収集③整理④振り返り・まとめ・表現）に沿って取り組む実践を重視する。ICT やまなボード等で思考の可視化や情報の共有のツールとして使い、試行錯誤を繰り返す中で理数的な見方・考え方を働かせ、未知の状況にも柔軟に対応できる資質・能力の育成を目指す。	B
指標 理数科アンケートの項目７「勉強したことが生活に役立つと思いますか」の肯定的意見を 93%以上にする。（R７→89%）	

取組内容②【４　誰一人取り残さない学力の向上】（自立的･協働的な学びへの授業改善） 　児童が自身の進度や課題を設定する「マイプラン学習」を導入し、個々の特性に応じた主体的な学びを支援する。また、学習活動内での対話的な関りを重視し、多様な考えに触れながら深まる協同的な学びを構築する。個の自立と集団の対話を両立させ、全児童が学びの喜びを実感できる授業づくりを目指す。 指標 　研究推進委員会の回数を学期に２回以上実施する。また、日々の学習活動を通じて１日１回以上は、ペアトークやグループトーク、まなボード、SkyMenu の思考ツール等の対話的活動を取り入れ、年間を通じて継続的に指導する。	B
取組内容③【４　誰一人取り残さない学力の向上】（補充的な指導の実践） 　基礎学力の定着を図るため、スキルアップクラス等の取り組みを進める。また、漢字能力の向上を図るとともに、自主的･計画的に学習に取り組む態度を育てるため、漢字学習の様々な取り組みを進める。 指標 基礎学力定着テスト（金塚小オリジナル）を年２回実施し、その結果から学力向上に支援を要する児童を対象にした「スキルアップクラス」を年間通じて計画的に実施する。	B
取組内容④【４　誰一人取り残さない学力の向上】（理数教育の充実） 　観察実験や体験学習、出前授業を取り入れ、児童の気づきや発見を活性化させ、科学的な思考を育成する。また、指導内容に応じて、ICT 機器情報ネットワークを適宜活用することによって、児童の活動の場を広げたり、学習の質を高めたりする。 指標 　理数に関わる体験学習や出前授業、校外学習を各学年、年１回以上は行う。	B
取組内容⑤【４　誰一人取り残さない学力の向上】（英語教育の強化） 　児童の英語学習に関する興味・関心を高める活動を数多く取り入れ、達成感を味わうことで楽しさを体験し、英語に慣れ親しむコミュニケーション能力を育成する。ICT の活用、ネイティブ・スピーカーによる指導を進めていく。 指標 　低学年からの英語モジュール活動を計画的に行う。また、低学年児童においてもネイティブ・スピーカーによる授を学期に１回以上行う。	B
取組内容⑥【５　健やかな体の育成】（運動に楽しく参加できる取り組み） 　体育科の授業や休み時間などにおいて、体力・運動能力を高める取り組みを積極的に実施したり、毎日運動場に出て遊ぶよう促したりして、運動が楽しいと感じる児童を育成していく。 指標 ・学校全体で体力や運動能力の向上に関する児童が楽しく感じる取り組みを年１回以上行う。 ・児童が安全に楽しく遊ぶ場づくりに努め、年間を通じて運動環境の整備、調整を行う。	B
取組内容⑦【５　健やかな体の育成】（健康上の教育環境づくり） 　健康に関する指導、食に関する指導の充実を図る。	B

指標 ・月 1 回の清潔検査や健康生活についての取り組み、年２回の「保健強調週間」（仮称）を実施して健康な生活の習慣化を図り、年間を通じて各学級でも啓発・指導を継続して行っていく。 ・月 1 回発行する「食すこやか通信」や「給食だより」を活用したり、栄養教諭による食に関する指導を年間各学年２回以上実施したりして、児童の食への関心を高める。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 理数科探究として、生活科、総合的な学習の時間、算数科、理科を中心に据えながら各教科、学校生活のあらゆる場面において、研究主題に迫る実践になるように日々研究している。

② マイプラン学習の良さを生かした授業デザインを、子どもの実態、発達段階をもとにして取り入れ、効果的な活用場面、教材を研究している。低学年では、図工科、高学年では理科、社会などで実践してきた。また、研究推進委員会を学期に 2 回以上は実施し、互いの実践からの整理分析を行っている。

③ スキルアップ放課後フォローアップ学習を計画的に取り組んでいる。

④ 各学年、理数科に関わる出前授業や自然観察会、体験などを計画的に実施している。

⑤ スキルタイムを活用し、英語モジュール学習を実施している。低学年は阿倍野区出前授業を活用し、ネイティブスピーカーによる授業を実施できた。2 学期にも予定されている。

⑥ 外遊びを通した運動を積極に行えている。合同体育では学年を超えた運動や体つくりあそびを行えている。また、エアコン工事のため講堂を使えない期間もあったが、「投」の運動について、日々の学習時間でフォームロケットや紙鉄砲などを取り入れた。また、講堂にエアコンがついたことで、運動環境が改善され、例年に比べ、体育後の体調不良者の保健室への来室も減っている。

⑦ 栄養教諭による食に関する指導を計画通り行っている。また、個別の児童への食育として、それぞれの実態や課題の把握に努め、がんばりカードや個別の声かけなどを積極的に行っている。足の健康を重点課題として、全校的に取り組みをすすめている。足のキャラクターが靴の正しい履き方を啓発したり、足の健康にかかわる掲示を行って子どもらの意識を高めるようにしている。

今後への改善点

今後も継続的に、計画的に進めていく。
⑤については、C ネット担当と時間調整を図り、低学年の外国語活動の充実をすすめていく。

（様式２）

大阪市立金塚小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 **・小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、単に調べるだけでなく、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。** **（R ７：74.2%）** ・「学校園における働き方推進プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす割合を８５％以上、基準２を満たす割合を１００％とする。 （基準１　R ７：81.8%　　基準２　R ７：100%　） ・年度末の教職員アンケートにおける「校内研修は充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を前年度並みにする。 （R ７：100%） ・小学校経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７１%以上にする。 （R ７：71%） ・年度末の保護者アンケート「学校は学習の様子や学校行事の様子を積極的に保護者や地域に伝えている」に対して肯定的に回答する保護者の割合を前年度並みにする。 （R ７：92%）R ８前期：99%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【６　教育ＤＸ】（ＩＣＴ活用） １人１台端末の環境を生かし、個別最適な学びまたは協働的な学びの実現に向けた取り組みを実施する。	B
指標 １人１台端末の環境を生かし、個別最適な学びまたは協働的な学びに活用した学習を週１回程度行う。 情報スキルチェックリストを１学期に１回とり、ICT スキル確認や向上を促す。 個々の能力の向上を目指して週１回のスキルタイムで ICT スキルを向上させる。	
取組内容②【７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（働き方改革） ゆとりの日を月２回設定し、計画的に業務を遂行できる職場づくりを行う。	B
指標 ゆとりの日を月に２回設定する割合を１００％とする。	

取組内容③【７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】（教員の資質向上） 　教職員の資質向上に向けた取り組みを実施する。	
指標 　教員の授業力向上を目的とした研修を年５回行い、その内１回は研究テーマに即した研修を行う。	B
取組内容④【８　生涯学習の支援】（読書活動） 　生き生きと読書を楽しむための取り組みを実施する。 学級の図書環境を充実させる。	
指標 　年１回の読書週間の取り組みと本の紹介カード作成を行う。 　年１回、本に親しむイベントを行う。 　学級文庫を教室に常備したり、移動図書の取り組みをしたりして読書を楽しめる環境を作る。	B
取組内容⑤【９　家庭・地域と連携・協働した教育の推進】（地域学校協働活動） 　学習の様子や学校行事の様子を地域･家庭に積極的に発信し、学校･地域･家庭の連携による様々な取り組みを行う。	
指標 　学年だよりを年１１回以上発行する。 　学校ホームページで児童の様子を更新する。 　地域・家庭とともに活動する取り組みを年３回行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

① 各学年の実態に応じて、学習や学級活動など、様々な場面で一人一台端末を活用することができている。また、スキルタイムで思考ツールの活用方法を学んだり、タイピングを習得したりするなど、ICT 活用能力の向上を図っている。スキルチェックリストについては、２学期に２回（うち、１学期分として近日中に１回）実施する。

② 「ゆとりの日」を計画通り設定することはできている。しかし、時間外勤務の増加が見られることから、業務の効率化や業務内容の見直しが課題となっている。

③ 外国語活動研修、探究に関する伝達研修、ICT 研修、非認知能力アセスメントに関する研修など、各種研修を実施しており、計画的に進めることができている。

④ 読書週間に関しては、１０月に実施予定。今年度の初めに、廃棄本を学級文庫へ転用し、学級文庫の充実を図った。また、学級文庫の定期的な入れ替えや、学習内容に合わせた学級貸し出しも行っている。図書館司書による読み聞かせや味見読書などの取り組みも、学級の実態に合わせて実施している。また、朝の読書タイムを設定したことで、全学年読書に親しむ習慣の定着が進んでいる。

⑤ 学年だより、学校だより、ホームページを活用して、積極的な情報発信を行っている。特に学校だよりについては、両面印刷とし、写真や記事を増やすことで学校の様子をより詳しく伝えている。学級だよりや Google classroom を活用して、子どもたちの日々の様子を伝えている学年もある。ホームページの更新も継続的に行っている。また、地域・家庭とかかわる行事として、夏にはサマーフェスタを実施し、今後は防災学習やオータムフェスタを予定している。

今後への改善点
① スキルチェックリストを確実に実施し、ICT 活用状況を把握するとともに、結果をスキルタイムの学習内容に反映し、児童の ICT 活用能力の向上を図る。 ② 「ゆとりの日」の確保に加え、公務分掌や行事準備の進め方を見直し、教材やデータの共有を進めることで、業務の効率化と時間外勤務の縮減につなげる。 ③ 研究テーマに沿った研修や、実践交流の機会を充実させ、研修で学んだ内容を日々の授業実践に生かすことで教員の指導力の向上を図る。 ④ 読書週間や読書イベントを計画的に実施するとともに、学級文庫や学校図書館の活用を促進し、児童が読書に親しむ機会をさらに増やしていく。 ⑤ 学校だよりやホームページによる継続的な情報発信を行うとともに、防災学習やオータムフェスタなどの活動を通して、家庭・地域との連携を一層深める。